

だんだん

第65号
平成30年8月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

8月は、「人権文化をすすめる 県民運動」推進強調月間です！

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたり、行動することが「当たり前」になった生活をいいます。

「がんばってね会」

6が1にち、
ともだちがてんこうするので、「あたらしいがっこうでもがんばってね会」をしました。



おてがみをわたしたり、サッカーをしたりしました。たくさんあせをかいて、たくさんわらって、みんなとってもえがおでした。

さいごに、

「わたしもがんばるから、〇〇くんもがんばってね。」

といて、さようならをしました。

いっしょにあそんだり、べんきょうしたりしたことが、とってもいいおもいでです。またあえるといいなあとおもいます。

(小学1年生)

「やさしい人が多い町」

わたしの住んでいる町には、やさしい人がいっぱいいます。わたしがいつも出会う人の中でも二人います。



一人目は、交通安全ボランティアの人です。なぜかというと、いつも元気にあいさつしてくれるからです。

二人目は、近所のおばちゃんです。おばちゃんもボランティアの人のようにあいさつしてくれたり、「がんばってるね。」と声をかけてくれたりします。

わたしは、あいさつしてもらうと気持ちよくなるので、毎日気もちよく学校に行くことができます。だから、こんどからは自分からあいさつして、みんなを気もちよくさせたいです。

(小学3年生)



「オムライスの話」

お母さんが風邪でオープンスクールに来られませんでした。そんなお母さんに作ったオムライスの話。

先生：オムライスは、ママの好物なの？

ぼく：いや、そっじゃなくって。ママは、ぼくの作った料理が好きなんや。ぼくとお姉ちゃんが作ったら、おいしいおいしいゆうて食べてくれはるんや。

先生：そうなん？この日もお姉ちゃん

といっしよに作ったの？

ぼく：いや。この日は、お姉ちゃんは友だちと遊びに行ってたから、ぼくが一人で作った。「ママ、元気になあれ。」ゆうて作ったんや。ママは、お姉ちゃんの習いごとの送り迎えやぼくの病院で、つかれてはるからなく。



先生：えらいなあ。ママ、元気になった？

ぼく：いや、まだちょっとせきとかでてはるから、次は特製パフェでも作ろうかな。

(小学4年生)

「困っていたら、助けなきゃ」

私には、おばあちゃんがいます。いっしよにさいほうをしたり、散歩をしたりします。働き者なので、いつも私の家はピカピカです。そんなおばあちゃんですが、最近、「足が痛いなあ。」と言っていて、とてもつらそうです。

私は、4年生の時に、高齢者体験をしました。こしをまげたり、足に重りをつけたりして歩きました。すると、足は上がらないし、こしは痛いし、とてもしんどかったです。この体験で初めて高齢者のつらさが分かりました。



私はおばあちゃんが大好きです。だから、おばあちゃんが元気でいられるように、手伝いをたくさんしたいです。また、他の高齢者の人や困っている人にもやさしく接していきたいです。そのような人たちを助けるのがふつうになるような、そんなやさしい社会にしていきたいです。

(小学6年生)



「私にできる小さなこと」

以前に、私は母と電車に乗った時、席をゆすつたことがあります。電車が動き出したころ、赤ちゃんの泣き声が聞こえました。声の方向を見ると、泣きながら暴れている赤ちゃんを抱いた外国人のお母さんが困った顔で立っていました。周りの人たちは、一瞬声の方向を見ましたが、またすぐにスマホを見たり、寝たりしてました。



私がどうしようか悩んでいると、母が「席をゆずる。」と提案してくれました。外国人で上手に伝わるかわからなくて、身振り手振りで席をゆずりました。背の低い私が小さな子どもに見えたのか、はじめは断られましたが、さらにどうぞどうぞとすすめるので、にっこり笑って日本語で「ありがとうございます。」

と言ってくれました。座ると赤ちゃんも泣きやんで、私は嬉しくなりました。するとお母さんが、「あなたも小さいころ、いろんな人に席をゆずってもらったんやで。」



と教えてくれました。それを聞いて私は、助け合いのリレーのようにつながっている気がして、はらにうれしくなりました。それだけでなく、心までぽっと温かくなりました。

(中学1年生)

「ペーロン体験乗船」

ペーロン船に乗って、相生市の伝統文化をより感じる事ができました。それに、全員が協力して船を漕げていたので、すごくよかったです。最初は、みんなで船を漕ぐタイミングを合わせていただけ、だんだんそろってきて、スピードも速くなってきたので、レースは勝てるんじゃないかと思っていたら、本当に一位になったので、とてもうれしかったです。

クラスの団結力が高まったと思います。決勝戦では、1組に1秒差で負けたけど、1・2・フィニッシュで制覇したので、団結力が強いのかなと思います。



(中学1年生)

「北海道を訪れて」

印象深い事は、アイヌ記念館での話です。事前学習の時から、私はアイヌの人たちについて、たくさん調べていました。記念館の話を聞いて一番驚いたことは、アイヌ語には文字がなかったということです。生活するうえで文字は必要です。何より自分の気持ちを伝えるために、文字はなくてはならないものです。言葉だけで自分たちの文化を残そうとしたアイヌの人たちは、どんな気持ちだったのかと思いました。



他にもいろいろな体験をしました。集団で行動するうえで自分勝手な動きをする、他人に迷惑をかけます。だから、他人に迷惑をかけないということが大切だと改めて思いました。班別行動でも時間に遅れないように、遅れたら別の計画を立てる、といった臨機応変な行動力が大切だと経験から学びました。

修学旅行三日間、楽しいことがたくさんあって、よい思い出が増えてよかったです。

(中学3年生)

ソーシャルサイトのリスク

を聴いて



最近、ニュースでもスマートフォンに関わる事件がたくさん取り上げられています。今日の講演を聴いて、そのような事件に巻き込まれないように、メールアドレスやパスワードの設定をもう一度しっかりと確認したいと思います。私はこれから高校を卒業して、大学へ進学、社会人へとなっていく予定です。この中でスマートフォンを使う機会が今より増えてくると思いますが、相手のことをしっかりと考え、相手を傷つけることのないよう気をつけ、トラブルに巻き込まれないよう、正しく使えるようにしたいと思います。

スマートフォンは使い方によっては、日常生活に支障をきたしたり、健康に悪い影響を及ぼしたりすることもわかりました。

私だけでなく家族全員で、安全なスマートフォンの使い方を学び、情報モラルも身につけていかなければならないと思います。

(高校3年生)

家庭対話ウィーク

家族で対話を

7月21日(土)～7月27日(金)の一週間を家庭対話ウィークとしています。

見つめ合う、ついでに

家族でみつめ合える幸せなひととき。ふだん忙しい時は、用事だけですんじまう家族の対話。家族の寂しげな横顔に気付く間もなく、せかせかした会話ですませてしまうこともある日常。

だからこそ、家庭対話ウィークでは、何気ないやりとりの中で、ほんの少しだけ時間を作って、じーっとお互いに見つめ合ってみてください。



最低限の会話とは？

最低限の会話とは何でしょうか？

簡単なことです。それは、あいさつ。

おはよう。おやすみ。ありがとう。

誰もが気軽に声をかけることができる

最低限のコミュニケーションですが、このあいさつや言葉を常にかけつづけるこ

とです。それだけでいいのです。

人権の集い

出演 ダニエルカールさん

講演「人にやさしいひとづくり」

まちづくり

「未来へつなぐ家族・地域の絆」

日時 8月8日(水) 18時00分 開演

会場 相生市文化会館大ホール

非核平和展

日時 8月3日(金)～6日(月)

8日(水)～9日(木)

会場 相生市文化会館

(1階エントランスホール)

内容 非核平和ポスター、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルの展示等

ふれあいコンサート

出演 ちひろさん

「明るいほうへ」

「金子みすゞの心ととも」

人としての原点を見つめ、忘れていたものを思い起こさせてくれる心あたたまる

トークコンサートです。

日時 12月16日(日) 14時30分 開演

会場 相生市文化会館大ホール

※すべて入場無料

